

令和 8 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓「自ら 学び 思い 律する」のもと、

「志高く創造性豊かな実践力のある人間を育成する」を教育目標とする。

この目標の実現に向け、以下の資質・能力の育成を重視する。

○身の回りの事象や未知の課題について疑問をもち、それを追究する探究心

○心身を鍛え、困難にも粘り強く挑戦し続ける克己心

○共通の目標を持つ人々と協力して取り組む協同性

○新たな価値や価値観を創出し、新しい考え方を生み出して発展させる創造力

これらの資質・能力を育むことで、「多様な背景を持ち、自分とは異なる考え方や価値観を持つ人と協働できる人間」を育てることを教育方針とする。

2 学校の特色

本校は、国際コースをもつ普通科単独校として、確かな学びを通し、明日を切り拓く力を身につけることを目標に、次の点に重点を置き、学習指導、進路指導、生徒指導を行っている。

○どのように生きるかをともに考えるための教育の推進

○国際的視野にたつ国際教育の推進と外国語教育の充実

○各教科における深い学びの実現

○各教科の学びをつなげ、生かす「総合的な探究の時間」の充実

○上記の学びを通じ、新たな価値観や考え方を構築する創造力の育成

○挑戦する姿勢と自己管理能力の育成

3 学校の現状と課題

本校生徒は温和で真面目な生徒が多く、ほとんどの者が国公立大学や難関私立大学への進学を目指している。授業や学校行事、部活動等には概ね真面目に取り組んでいるが、教師主導の要素が強く、自ら計画を立てて行動しようとする主体性が不足している。また、自己の将来のヴィジョンを描いていない生徒が多い。

そこで、「授業や学校行事、各事業において主体的に取り組む姿勢を育成する指導方法を確立し、自発的に取り組む生徒を育成すること、それにより、学ぶ意欲を高めたり、自己の生き方や将来を考えたりする生徒を育てる体制を整備すること」を学校課題とする。

4 学校教育計画

項 目		目 標・方 針及び計 画	
1	学習活動	目標	○生徒の志望・能力・適性に応じて、各教科の特性とバランスを考慮し、段階を踏んだ系統的な指導ができるように教育課程を編成する。 ○学習の到達度や興味・関心等に配慮し、主体的・対話的で深い学びが実現する授業を行い、自ら主体的に学ぶ学習習慣を確立させる。
	重点1① 重点1②	計画	○生徒の全人的な発達がなされるよう教科や特別活動、他の領域との調和を図り、進路志望実現に向けた教育課程とする。 ○1 学年では基礎・基本を重視し、2・3 学年では生徒の進路志望に応じた類型、コース選択と科目選択を可能にする。 ○「総合的な探究の時間」を活用して、1・2 学年で「探究活動」および「進路探訪」を行い、課題を発見し解決していく能力および進路に対する目的意識を高め、3 学年では進路に応じた教科学習の深化を図る。 ○全教員による学習指導研修や教科別研修等により、教科指導の充実に努め、学力の向上を図る。 ○授業第一主義のもと、授業時数の確保に努める。 ○学年・教科担当者が連携し、生徒の学力の把握に努める。 ○毎日の予習・復習、課題などに計画的に取り組ませることにより、継続的な家庭学習の習慣を身につけさせる。 ○I C T機器や生成A I等を活用したり、文理融合や教科横断的な視点を取り入れたりして、生徒が主体的に学ぶ授業を推進する。 ○年間行事計画、学習のしおり等を活用して、生徒一人ひとりの学習予定表・日課表を作成させ、自主的な学習習慣を確立する。
2	学校生活	目標	○基本的生活習慣の確立及び社会の規律を守る態度を育成する。 ○健康や安全の意識を高め、心身の健康を自己管理できる生徒を育てる。 ○校舎内外の安全対策や環境美化に努め、生徒が気持ちよく学校生活を送ることができるようにする。
	重点2① 重点2②	計画	○学年における基本的生活習慣の確立（あいさつ、時間を守る等）を継続して行う。 ○生徒用個人ロッカーを利用するなど、貴重品の自己管理を徹底させる。 ○交通安全教室やサイクル安全リーダーによる交通安全指導を通して、交通安全に関する意識の高揚を図る。 ○生徒保健委員会の活動を活性化させ、環境美化への積極的な取り組みや校舎内外の生徒の安全に関わる情報発信を推進する。 ○南苑祭での展示発表、学校保健委員会での発表に向けた準備・運営を委員生徒が主体的に取り組めるよう支援する。 ○定期健康診断、各種検診の結果をもとに健康について指導する。 ○全職員が生徒理解に努め、教育相談の充実に努める。

項 目		目 標・方 針及び計 画	
3	進路支援	目標	○生徒が自己の可能性を発見し、多様な選択肢の中から自分なりの生き方を探し求め、力強く歩むことができるように助言・指導する。
	重点3① 重点3②	計画	○スタディサポート・学習支援調査（進路希望調査・意識調査）を実施し、生徒個々の実態を踏まえ個人面接に生かす。希望する進学先を明確にさせることにより、適切なコース・科目を選択させる。家庭での学習習慣を定着させ、目標達成のための学力をつけさせる。 ○入学直後の新入生オリエンテーションにおいて、学習の仕方を指導し、高校生活の基礎を作らせる。また、キャリア教育の一環として、1学年で県内の企業（OBやPTA）を訪問、2学年では大学・企業を訪問する「進路探訪」を実施し、進路意識の早期の確立に努める。 ○小論文指導、面接指導、大学入学共通テスト対策、個別試験対策など、きめ細かい指導を継続的に行うことで、高い志を持ち進路目標の達成に主体的に取り組む生徒の育成を目指す。 ○生徒向けの「進路のしおり」「学習のしおり」等を発行し、進学や職業に関する情報を整理させ、自己の進路実現に活用させる。 ○実力テスト・模擬試験等の成績資料が随時活用できる体制を整え、生徒の目標を段階的に設定するとともに、事後指導も確実に行う。 ○大学入試制度に関する正確な情報を収集し、検討・協議する。
4	特別活動	目標	○学校行事、部活動、ボランティア活動等に自ら主体的な態度で積極的に参加させ、人と交流することの大切さや、社会に貢献できる資質を養う。 ○読書活動を通して、豊かな教養を身につける。図書館を活用した自主的な学習を励行する。
	重点4①② 重点4③	計画	○体育大会、南苑祭において、多くの生徒が達成感・充実感を得ることができるよう、生徒に主体的な企画・立案・運営をさせる。 ○あらゆる特別活動で、生徒が「活動の本質を理解して自走できる」ための指導や助言に計画に工夫を凝らし自発的な活動を経験させることで、生徒の自立を促す。 ○図書館活動を活発にし、教科や学年との連携を密にして、生徒の読書に対する意欲を高め、読書習慣の定着を図る。 ○蔵書や資料を充実させ、図書や行事等に関する情報を発信して、図書館及び図書資料の活用を促進する。
5	その他 （国際教育）	目標	○海外研修、海外の協力校の生徒との交流や国際関係行事を通して、海外の生活文化等を知ることによって、自分たちの生活文化への理解を深めさせる。
	重点5① 重点5②	計画	○ALT等を活用して、普段から英語による授業を行い、英語コミュニケーション能力の育成と向上に努めるとともに、英検やGTECなどの外部試験を積極的に活用する。 ○海外研修、イングリッシュ・キャンプ、国際セミナー、国際理解のための講演会等を実施し、国際教育の充実に努め、生徒に英語や外国に興味・関心を持たせる。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 富山南高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	主体的に学ぶ生徒の育成
現 状	・日々変化し、予測不能な時代において、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながら、課題を発見、解決し、それを社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力を育むことが重要である。 ・積極的に質問し、納得がいくまで理解しようとする生徒は少ない。与えられた課題だけで満足している生徒も多く、学習習慣が身につけていない生徒もいる。
達成目標	① ICT機器や生成AI等を活用したり、文理融合または教科横断的な内容を取り入れた授業を行ったりすることにより、主体的に学ぼうとする生徒を育成する。
	② 学習手帳等に学習時間や学習計画を記録する。計画的な学習と振り返りを習慣とする生徒を育成する。疑問点や課題を明確にした上で、納得がいくまで理解する生徒を育成する。
方 策	[1]単元に1回以上ICT機器や生成AIを取り入れた授業を行った先生の割合50%以上 [2]文理融合または教科横断的な内容を授業に取り入れた先生の割合25%以上
	[1]学習手帳を有効に活用できたと考える生徒の割合70%以上（1年） [2]意欲的に学習したり、納得がいくまで理解しようとする生徒の割合50%以上（全学年）
方 策	1 教員アンケートを取り実施状況を把握する。授業実践事例を共有する。ICT機器や生成AI等を活用した授業や文理融合または教科横断型授業を学校訪問の指定授業で行ってもらう。 2 学習手帳等の使用を通じ、学習時間を記録したり、学習計画を立てたり、振り返ったりさせる。生徒アンケートを行い生徒の取り組み状況を分析する。その結果をふまえ、面接指導に生かし、生徒の学習意欲を喚起する。

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった）

令和8年度 富山南高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活（生徒指導・保健指導）
重点課題	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上、生徒保健委員会の活性化
現 状	・明るくまじめな生徒が多いものの、遅刻を繰り返す生徒やきちんとした服装やマナーが定着していない生徒も見受けられる。 ・昨年度は交通事故が15件発生。すべて自転車乗車中の事故で、重大事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーに関する苦情も寄せられている。 ・校舎内外には、生徒が学校生活を送る上で、事故や怪我を負う危険性のある箇所が多く存在する。日頃は、それぞれが注意を払いながら生活しているが、情報を共有することで安全に学校生活を送る必要がある。生徒保健委員会として活動目標や活動内容を明確にし、それぞれの委員生徒が自覚を持って、学校生活を安全に過ごそうとする意識を高め、保健活動や環境美化活動に主体的・継続的に取り組んでいくことで、全校生徒の意識向上に繋げていきたい。
達成目標	①交通ルールを守り、交通事故を起こさない、遭わない。
	②生徒の安全に関わる情報発信： ・校舎内外の危険箇所の調査・発信 ・事故等の予防策を考える ・ほけん便りに記事を掲載 ・文化祭の展示発表に向けた企画・準備
方 策	・遅刻・服装・あいさつ・マナー等に関する指導は、教育活動全体の中で全教員が一丸となっていく。特に、あいさつをかわす、時間を守るなど基本的生活習慣の確立を、生徒一人ひとりが主体的に自覚と責任をもった行動ができるように指導する。 ①交通事故 ・引き続き、交通安全教室やさわやか運動、サイクル安全リーダーによる交通安全街頭指導、HR、生徒会を通して交通安全に関する意識の高揚を図る。 ・努力義務ではあるが、ヘルメットの着用を呼びかける。 ②生徒の安全に関わる情報発信 ・生徒保健委員会の意義や役割を理解させ、委員としての自覚を促し、自ら進んで活動に参加できるよう生徒を支援する。 ・生徒保健委員会としての活動目標や活動内容を明確にし、年間活動計画を作成する。 ・委員生徒の役割分担や当番表を作成して各生徒の活動状況を把握し、適宜指示やアドバイスを与える。 ・前後期ごとに活動の振り返りや反省の機会を設け、以後の委員会活動に生かす。

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった）

令和8年度 富山南高等学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	進路支援
重点課題	高い志を持ち進路目標の達成に取り組む生徒の育成
現 状	・国公立大学に進学したいと考えている生徒の割合は1・2年次で9割以上、3年次で8割以上になるが、家庭学習時間を確保している生徒の割合が低い。 ・高い進路目標を抱くことができても、大学入学共通テスト対策や個別試験対策まで手が回らない生徒らが、断念してしまう場合が多い。
達成目標	①生徒の進路目標に向けての学習時間を確保する。
	②卒業時に進路指導についての満足度を高める。
方 策	・ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和8年度 富山南高等学校アクションプラン - 4 -	
重点項目	特別活動（学校行事への参画意識の高揚、生徒の主体的・自発的活動と教師のサポート） 図書館利用の促進
重点課題	生徒による学校行事の主体的な企画・立案・運営
現 状	①体育大会・南苑祭・球技大会において、生徒会執行部が企画立案し、生徒議会での審議を経て、体育委員や南苑祭実行委員のリーダーシップのもとに生徒一人ひとりが役割と責任をもって行動できるように道筋を示すことで生徒の誠実な行動や真摯な姿勢が少しずつ現れてきたように思える。令和8年度はさらに広く波及させたい。 ②道筋を示して役割を明確にしてやれば生徒は真面目な態度でそれに取り組むことができた。しかしながら、生徒が各活動の目的や本質を理解して自走していると言い難いので、もっと生徒が「失敗から学び、困難に立ち向かう」経験ができるように教師側の働きかけ方を工夫する必要があるように思われる。 ③探究活動や小論文の機会が増えているが、生徒が書籍を主体的に読み、考え、表現する力が、充分についているとはいえない。また、図書検索力や活用力が充分とはいえない。
達成目標	①体育大会、南苑祭、球技大会で高い達成感を感じる生徒 95%以上
	②各特別活動において、下記方策について理解し、指導を工夫する教師 75%以上
方 策	③授業(総合・HR含む)における図書館利用 ・1年間に30回以上
	①「体育大会」・「南苑祭」・「球技大会」のいずれも、「生徒会執行部が立案→生徒議会（→各クラス）で審議・決定」の流れで準備を進めていく。生徒自身が企画・立案・審議に参加する機会を設けることで、生徒の行事に対する意識向上を図る。 【実施後にアンケート調査】 ②教師側が生徒の主体的・自発的活動を導き出すとともに、その活動を我慢強く見守り、生徒が自らを律し、仲間と協働しながら自走できる力を身につけることを促す。また、教師側がその方針を共通理解する。 【実施後にアンケート調査】 ③図書館及び図書資料の活用促進を図る。 ・ICTを活用した電子図書館や蔵書検索など利用の定着を促進する。 ・授業（総合・HRを含む）で図書館及び図書館資料が有効に利用されるよう支援する。 ・県立図書館と連携し、利用者のテーマや内容に沿った関連図書の紹介をする。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和 8 年度 富山南高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	学習活動（国際教育・英語指導）および「総合的な探究の時間」の取り組み	
重点課題	英語コミュニケーション能力の育成と「総合的な探究の時間」の充実	
現 状	・授業を軸とし、さらに様々な活動（プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、国際探究発表等）を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指している。 ・「国際コミュニケーション」を学校設定科目として設定し、自然な英語の聞きとり、英語でのプレゼンテーション、意見交換ができる英語力の育成に努めている。 ・アメリカ サンディギート高校や海外高校とのオンラインを含めた交流を継続している。 ・国際コース向けに海外での活動経験がある方による「国際理解のための講演会」や「国際セミナー」を行っている。 ・令和 7 年度国際コース卒業生で英語検定 2 級以上を取得した生徒の割合は、73.7%であり、目標を達成した。 ・「総合的な探究の時間」の計画が 2 カ年を見越した計画となっている。	
達成目標	①コミュニケーション能力をレベルアップした生徒の割合（英検）	②「総合的な探究の時間」での生徒の積極的な取り組み
	・英検（国際コース）3 年終了時の英語検定 2 級以上取得者割合 75%以上	・アンケート調査による「非常に積極的」「積極的」に取り組めた生徒の割合が合わせて 75%以上
方 策	①について ・国際コースに限らず、全クラスで英語 4 技能 5 領域の力の向上を目指す授業を行う。 ・英語に関する行事（イングリッシュ・キャンプ、サンディギート校とのオンライン集中交流）を工夫して行い、生徒の英語に関する興味・関心をより高める。 ・英語の 4 技能 5 領域の力を計るパフォーマンス評価を継続して行う。 ・英語検定の受検を国際コースだけでなく普通科にも推奨する。 ②について ・県内外の講師を招聘し、「総合的な探究の時間」が充実したものとなるように指導を受ける。 ・積極的に外部機関と連携し、自己や地域課題への興味関心を高める。 ・活動の振り返りを行い、生徒一人ひとりが積極的に取り組めるように指導する。	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった）